

教員Bによる記述

やさしい日本語に対する批判的な意見があるが、この「正しい日本語とは何か」を定めようとする**規範主義**的な考え方を持つことには反対である。

なぜなら現在の在留外国人を排除した生活は既に考えられないからである。少子高齢社会において外国人人材は必須となり、彼らが日本社会に溶け込む「必要性」が生じている。たしかに全てをやさしい日本語に変換すると冗長な言語になったり、さらなる誤解が生まれる可能性もある。また、外国人日本語話者には初級だけでなく上級・超絶話者まで存在するため、やさしい日本語で全て対応をするという考え自体が間違っているといえよう。

しかしながら情報弱者である在留外国人を守るためにはやさしい日本語は必須である。また、情報が制限された災害時などには時間的に余裕をもつことができない場合は日本人にとっても命を救う重要な役割を果たすことが期待できる。

このことから批判を受けても、多くの日本人にやさしい日本語が使えるよう奨めるべきである。

(415文字)